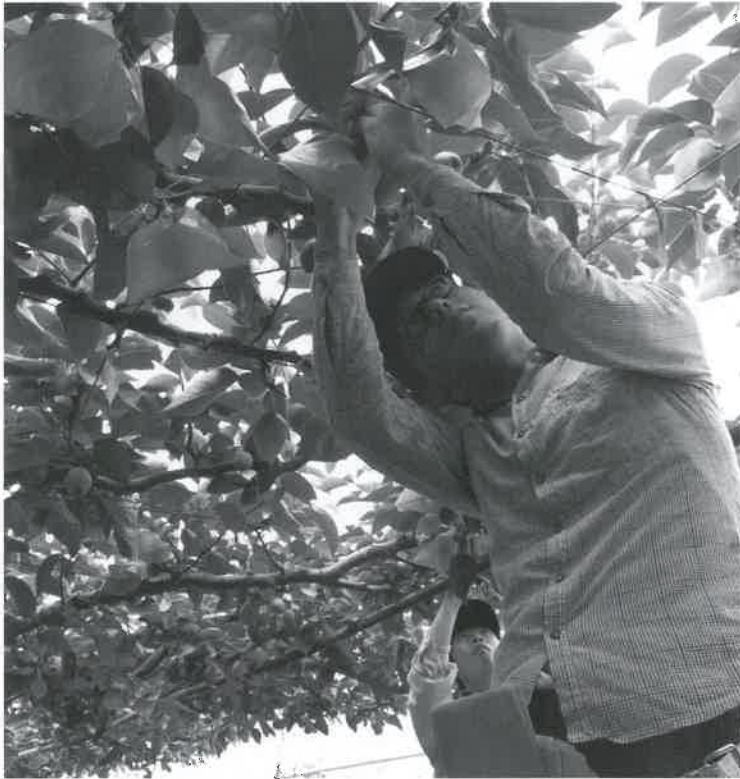


地域おこし協力隊 奮闘記 Vol.16

「梨栽培に取り組もうと思います」



今月は
水野誠也が
書いています



こんにちは。地域おこし協力隊・農業部門で活動している水野誠也(みずの・せいや)です。

4月からの3か月間は、さまざまなアグリマイスターさんのもとで1週間ずつ研修をさせていただきました。

農業経験はこれまで全くないため、4月当初は本当にやっていけないのかと不安でいっぱいでした。しかし、マイスターの皆さんは、さすが

大山町の選りすぐりの農家さんだけあって、農業の技術はもちろん、人間的にも尊敬できる方ばかりでした。無知な私にとってもやさしく指導してくださいと、農業だけにとどまらず、いろいろなことを学ばせていただき、あっという間の3か月でした。

7月から、私は梨農家の米澤誠一さんのもとで、本格的に研修をするようになりました。米澤さんは、この道40年

以上という梨づくりのベテランです。大山町の梨農家の中で最も広い1町6反という面積で農業をされています。大山果実部部长も務める、県下でも屈指の梨農家です。

普段は米澤さん、奥様の克子さん、研修生の十倉宏幸さん、同じ地域おこし協力隊の田中未菜子さん、私の5人で日々、作業をしています。初めての農業で慣れないことも多いです。でも、毎日にぎやかに働いていると、えらいなあ(覚えました!鳥取弁)と感じることはありません。米澤さんと克子さんの会話のかけあいには絶妙で、いつも笑わせてもらっています。

現在は収穫前の大詰め作業、大袋かけをしています。4月に研修に行ったときには花だったのに、今ではもうピンポン玉くらいの大きさになっています。自分が手をかけたものがすくすくと育っているのを見るのはとても感慨深いものがありますが、大きくなった実が落ちて、頭や足にあたるとけっこう痛いので注意が必要です。

今回の制度では、3年後には独立して就農しなければいけません。まだまだその姿をイメージすることはできていませんが、厳しくもやさしい米澤さんのもとで修業を積んで、この町で一人前の梨農家になりたいです。



▲木料海岸でフレスコボールに挑戦!



▲陣構の新茶まつりに行きました